

水泳・水球 No.11

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M05 2回戦

【2025/8/17】

那覇商業

9

3	—	4
1	—	2
3	—	2
2	—	3

PSO

11

四日市中央工

審判1 新井睦士

審判2 御崎智徳

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	松原 佑樹	20	11	31%
GK13	比嘉 駿仁	0	0	

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	道上 遼碧	23	9	31%
GK13	木内 柊真	0	0	

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	松原 佑樹			
2	松田 維吹	3	2	
3	比嘉 夏海	4		1
4	比嘉 柊舞	8	3	1
5	仲本 福志丸	2	1	2
6	仲島 徹徳	1	1	
7	宮城 京太			2
8	花城 陽人			1
9	仲尾次 諒汰			
10	永吉 孝晟			
11	仲村 ヒカル			
12	佐藤 大幸	5	2	2
GK13	比嘉 駿仁			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	道上 遼碧			
2	山内 康平	5	1	1
3	森下 士雄			
4	山崎 唯			
5	伊藤 絆夏	3	1	
6	小坂 悠哩	2	2	1
7	山本 凌太郎	10	7	
8	荻野 煌也			
9	角谷 健祥			
10	岩本 爽甫			
11	鈴木 渚翔			
12	新保 陽大			
GK13	木内 柊真			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月17日（日）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

5

帽子の色 白

帽子の色 青

那覇商業

9

3	-	4
1	-	2
3	-	2
2	-	3
PSO		

四日市中央工業

11

審判1： 新井 睦士

審判2： 御崎 智徳

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会（水球）兼第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）、山口県きららプールで行われたゲーム番号5の一戦は、九州代表・那覇商業高等学校と東海代表・四日市中央工業高等学校の対戦となった。那覇商業は九州大会で初優勝を果たし勢いに乗って本大会に臨む新鋭。一方の四日市中央工業は創部53年を迎える伝統校であり、近年も全国上位に名を連ねる常連。両チームともに高い個人技を武器とするだけに、序盤から目の離せない攻防が展開される。

試合は第1ピリオドから激しい点の取り合いとなった。先手を奪ったのは四日市中央工業で、②山内、⑦山本らの速攻で3連続得点。ここで那覇商業はたまたまタイムアウトを要求し立て直しを図る。以降は④比嘉隆がポストプレーから意地の得点、⑩佐藤の力強いシュート、さらに④比嘉隆が自らボールカットからのループシュートを沈め、怒濤の3連続得点で試合を振り出しに戻した。しかし終了間際に⑦山本がペナルティを獲得して決め切り、スコアは3-4と四日市中央工業が一步リードして最初のピリオドを終えた。

第2ピリオドは互いにディフェンスが機能し、得点のペースがやや落ち着く。那覇商業は③比嘉夏が退水を誘発しチャンスを作るが決めきれず、5:37には四日市中央工業⑦山本のシュートリバウンドからの粘り強いプレーで再び失点。それでも3:32に⑤仲本が力強いミドルシュートを決め反撃。高い攻撃力が完りの那覇商業らしい場面も見られたが、決定機を逃す場面が続いた。一方、四日市中央工業は⑤伊藤が要所でゴールを決め、キャプテン④山崎のプレスから流れを引き寄せるなど経験値を感じさせる試合運びを披露。ピリオドスコアは1-2、前半を終えて4-6と拮抗した展開ながらも四日市中央工業が優位を保った。

第3ピリオドに入ると、那覇商業は再び持ち味を発揮する。6:52、③比嘉夏のおバスの②松田が冷静に決め反撃の狼煙を上げると、2:12には③比嘉夏がゴール前で粘り、ペナルティを誘発。これを⑩佐藤が確実なシュートで沈め、観客席からは大きな声援が沸いた。さらに終盤0:34には④比嘉隆が5m付近から相手を交わしてゴール。個々の力で相手ディフェンスを突破する那覇商業らしい攻撃が光った。しかし四日市中央工業も黙ってはいない。⑦山本が要所で確実な得点を重ね、ここまで6得点と大活躍。3ピリオドスコアは3-2、トータルでは7-8と那覇商業が1点差に詰め寄り、勝負の行方は最終ピリオドに持ち越された。

第4ピリオド、試合はさらに白熱した。那覇商業は6:09に②松田が力強いミドルを決め同点に迫る。しかしここで再び四日市中央工業の⑦山本が存在感を発揮。退水を誘発し、自らペナルティを決めるなど得点を量産。さらに⑥小坂もカウンターからゴールを挙げ、徐々にリードを広げた。那覇商業も試合終了間際に⑥仲島が気迫のゴールを決めたが及ばず、最終スコアは9-11。四日市中央工業が伝統校の意地を見せて勝利を収めた。

総じて、四日市中央工業は主将④山崎を中心に全員が闘志溢れるプレーを披露し、特に⑦山本は攻守にわたりチームを牽引。要所での決定力が勝敗を分けた。対する那覇商業も、④比嘉隆や③比嘉夏、⑩佐藤らが持ち味の個人技を発揮し、沖縄水球の新たな力を示した。惜しくも敗れはしたが、攻撃のスタイルに守備意識が加わり、チームとしての成長を印象づける内容であった。

会場全体を沸かせた華やかなパワーク、そして1点を争う緊張感の中での数センチのパスのずれや一瞬の判断が勝敗を分ける水球の醍醐味が凝縮された一戦であった。両校の健闘を讃えとともに、今後のさらなる活躍に期待したい。

記録者

伊藤・加藤・菅原